

砂糖工場建設事業



本事業により建設された砂糖工場

[借款概要]

承諾額/実行額	5,100百万円 / 3,854百万円
借款契約調印	1982年12月
借款契約条件	金利2.25%、返済30年（据置10年）
貸付完了	1991年5月

[事業概要]

ミャンマー中央部ペゲー州にて生産される砂糖きびを原料とする砂糖工場を建設し、砂糖の国内需要に対処するもの。

[評価結果]

ミャンマー政府は本事業計画時に工業振興と輸入代替の促進に努めていた。本事業も外貨不足のため輸入禁止とされていた砂糖の増産を図り、国民の需要に応えるものであった。

本事業により建設されたプラントは1988年に完成したが、同年の政情不安により試運転が延期されたため、本格的な操業は1991年11月からとなった。

プラント設備は砂糖きび処理能力1,500トン/日、砂糖生産能力25千トン/年を有するが、1994年から98年の生産実績を見ると、設備能力を下回る15～17千程度で推移している。この生産量は多い年では国全体の生産実績の20%程度を占め、国民の砂糖消費量の増加（1990年1.5キロ/人、2000年3.8キロ/人）に寄与したものと見られるが、2000年以降の生産実績は、更に12千トン余りまで減少し、引き続き不安定なものとなっている。これは砂糖きびの供給不足が原因とされ、背景として砂糖きびの買入価格が他の作物より割安なため、生産農家が米や豆類に転作したことが挙げられている。

今後、本プラントの能力を十分発揮するためには、周辺地域での砂糖きび生産・供給量の確保が課題である。